

小金井第三小学校 開校70周年【祝辞】

小金井市立小金井第三小学校が開校70周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

70年という長い歴史の中で、本校の歴史を辿りますと、“北多摩郡小金井町”の時代、昭和21年に「小金井第一小学校東部分教場（とうぶぶんきょうじょう）」として梶野町の長昌寺付近より、現在地に移転しました。昭和26年に、小金井第一小学校から独立し、「小金井第三小学校」として開校し、現在に至ります。

開校当時は、戦後の復興期であり、先人の方々による並々ならぬご努力により、幾多もの困難を乗り越え、様々な体制整備が行われました。

当時の三小の周りには、高い建物が少なく、辺り一面畑の中、校庭からは、富士山、丹沢山地、秩父連山等の美しい山々が見渡され、澄み渡った青空からは、陽の光が校舎一杯に差し、とても美しい風景であったと伺っております。

以後、人口は急速に増加し、昭和33年には、小金井町から小金井市への市制施行、昭和39年には、全国で初めての請願駅となる東小金井駅開業、更には都市化の進展等により、開校当時2万人強であった人口は、現在においては、その6倍にあたる12万人を超えるまでになりました。

開校当時459名であった三小の児童数は、70年を経た現在、概ね倍の875名となり、市立小学校の中で、一番の児童

数となっています。

三小の教育環境は大変素晴らしく、陽の光があたる南向きの明るい校舎と、桜をはじめ、色とりどりの植物が咲き誇り、多くの花々や木々に囲まれ、伸び伸びと駆け回ることのできる市内の小学校では一番広い校庭を持つという特長があります。

これまでに、多くの卒業生が社会に巣立つことが出来たのは、教職員の皆様、地域の皆様、そして、保護者の皆様やPTAの皆様方のたゆまぬご尽力の賜物であり、改めまして関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

三小開校以来、各節目には、様々な社会的出来事がありました。例えば、創立50周年（2001年）においては“21世紀の幕開け”という、希望に満ちた、大変輝かしい年であり、創立60周年（2011年）においては、東日本大震災という国難が起こり、その復興に向けて多くの国民が行動した年でした。また、今回の創立70周年においては、新型コロナウイルスによるパンデミックの中、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を始め、数多くの難局を乗り越えようと努力を積み重ねた年でありました。

特にこの間、学校関係者及び保護者の皆様におかれては、様々な制約のある学校生活において、一人一台のパソコンを導入したGIGAスクール構想によるICT機器の活用等、従来にはない方策で、日々ご尽力をいただいております。

三小の教育目標は、「考える子供」「仲良くする子供」「働く

子供」「体を鍛える子供」であります。

現在の日本は、人口減少社会の到来、並びに少子高齢化の進展により、今後の経済成長への影響、また、人口構成の変化により、今まで以上に社会が急激に変化していくものと思われまます。また、情報化やグローバル化等の進展により、多様な主体が相互に影響し合い、先を見通すことが困難となっています。

このような時代だからこそ、三小における教育目標の一つである「考える子ども」、或いは、校歌において「自立の気風」とあるように、新しい時代、また、SDGsにも掲げられている“持続可能な社会”を生きるため、答えのない難しい社会課題の解決に向けて、自ら考え、新たな価値観を生み出していくことがとても大切です。多様性を理解し、今後起こりうる幾多もの課題に向き合い、解決していくために必要な力が育成され、新しい未来を切り拓いていただくことを切に願っております。

結びに、小金井第三小学校が歴史と校風を継承しつつ、学校教育のさらなる創造に向け、益々ご発展されますことを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

令和3年11月12日

小金井市長 西岡 真一郎